



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

決勝レポート

2017/7/9 Rd-3 富士スピードウェイ

天候：晴れ 気温：34℃ 出走台数：19台

観客数：8日(土)13,400人 9日(日)21,200人 合計34,600人

開幕戦鈴鹿は200km、第2戦岡山国際サーキットはスプリント2レース制、第3戦富士スピードウェイは今季初めての250kmのレースフォーマット。ドライバーの比重が比較的大きくなるスプリントレースから一転、チーム総合力が試されるロングレースとして開催される

昨日の予選日よりさらに気温は上昇し、真夏のコンディション。タイヤ交換義務はないものの給油は必要となるレース距離のため、全車ピットインで給油は行すが、タイヤ2輪交換か4輪か、無交換で走り切るのか、チーム総合力の見せ所だ。

動き出しからの伸びが今一つでポジションを落とした野尻選手だが、オープニングラップの混乱の中、ライバルにヒットされながらの肉弾戦を制し、11番手までポジションを回復する。伊沢選手は好スタートで2台をパスし10番手へ、自己ベストを更新しながらの周回が続いた。17周目、チームは野尻選手をピットに呼び、給油とリアタイヤのみ交換を行ってコースに送り出す。対する伊沢選手はペース好調のため31周目までピットインを遅らせ、タイヤ4輪交換を行った。レース終盤になると、タイヤ無交換を選択したドライバーのペースが上がらず、伊沢選手は4位争いを、野尻選手は8位争いを、15周以上にわたり随所で繰り返すものの、オーバーテイクには至らず、伊沢選手6位、野尻選手10位で、熱く長いレースを終えた。

40：野尻選手 10位 (HONDA 勢4位)

スタートで出遅れたことで、レースペースは良かったにもかかわらずポイントを獲得できなかったことがとても残念です。

2017シーズン当初からの問題点も継続して解決できていない部分があります。

速い車を作っていく能力もドライバーに要求される重要な部分ですから、これまでの検証とともに、ツインリンクもてぎに向けたメニューをチームと考察し、強く速くなって帰ってきます。

41：伊沢選手 6位 (HONDA 勢2位)

第2戦岡山に続き、今回も決勝におけるレースペースはとてもよく、ポイントを持ち帰る事が出来たのは良かったです。

今の私たちの課題は予選の速さ。フリー走行では好調も、浮き沈みが大きく安定したパフォーマンスを得るに至っていません。本来のパフォーマンスに戻すため、次戦ツインリンクもてぎに向けて問題点を確実に解消することに集中します。